

元気な会社・地域の創り方 神奈川県が「地劇」で魅力創出

神奈川県では、地域発のミュージカルや演劇をはじめとする「地劇」によって文化芸術の磁場を創り、地域に魅力とにぎわいをもたらす「マグカル」（マグネット・カルチャー）事業を展開中だ。

そのために県と横浜市が連携して有識者による企画委員会「マグカル・テーブル」を設置している。

テーブルマスターは神奈川県黒岩祐治知事と横浜市林文字市長。委員には、演出家のラサール石井さん、アーティストの白井貴子さん、携帯電話の着メロを開発したフェイス・グループ代表の平澤創さん、全国でライブハウスZeppを展開するバックステージプロジェクトの杉本圭司さん、県民ホール館長の眞野純さん、劇作家の横内謙介さんをはじめ多士済々が集い、不肖私が座長を務めさせていただいている。

黒岩知事が提唱する「マグカル」のビジョンは明確だ。地域の文化芸術は

人がすべて。人と人の絆を結び人を育てる。そしてソフトの質を高めハードを活用し、リアル&バーチャルで情報発信していく。

具体的には、まず昨年末からネット上に県内のあらゆる文化芸術に関する「マグカルドットネット」を立ち上げ、ポータルサイトとフェイスブックを通じてリアルタイムの情報発信をスタートした。

そして「マグカルフェスティバル」と題し、KAAT（神奈川県芸術劇場）などの公共施設や、歴史的建造物であるキング（県庁本庁舎）、クイーン（横浜税関）、ジャック（開港記念会館）の横浜三塔を活用し、1年を通じてさまざまなイベントを展開中だ。

また、次世代アーティストの発掘・育成のために、県立青少年センターを青少年演劇の殿堂「マグカル劇場」として開放している。

その目玉が「マグカル芝居塾」だ。演出家の笹浦暢大さん率いる「M・



Pink」の指導の下、10代から20代までの若者が、演劇・歌唱のみならず、

マグカル劇場の公演「光る航跡」のポスター⑤と神奈川県文化発信サイト「マグカルドットネット」のロゴマーク⑥



舞台装置・衣装・照明・音響といった裏方に至るまで芝居づくりに挑戦し、成果を発表する体験の場である。

8月17、18日には、塾の集大成となるステージ『光る航跡』が幕を開ける。さあ、刮目^{かつもく}して見よ！東洋のロードウエーを目指す神奈川県で花開く若き才能たちの晴れ舞台を。



マーケティングコンサルタント 西川りゅうじん 「ウォークマン」の販売促進、六本木ヒルズの商業開発、愛・地球博のモリゾーとキッコロや平城遷都祭のせんたくんの選定・広報に携わるなど産業と地域の元氣化に努める。厚生労働省「健康寿命をのばそう！」運動スーパーバイザー。瀬戸内海沿岸の7県による「瀬戸内ブランド推進連合」プロデューサー。1960年生まれ。